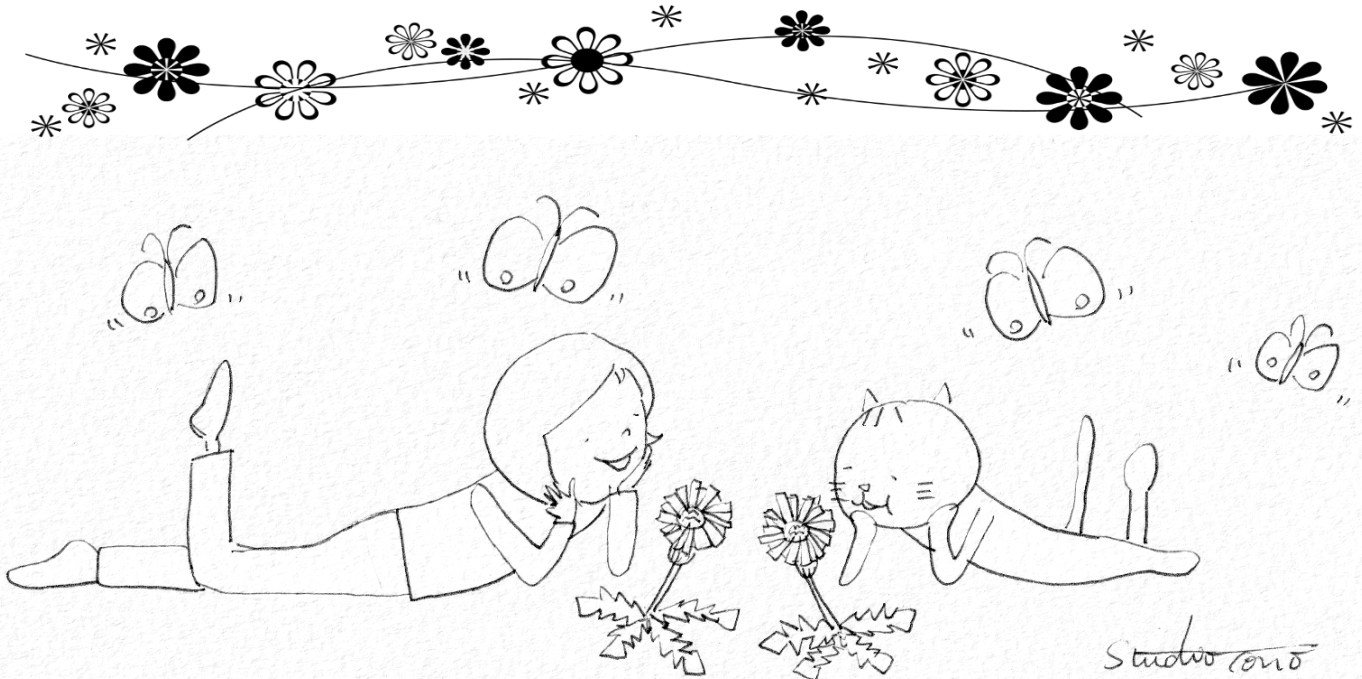


# この本よんだ？

～りいぶる BOOK プラス～



## アマ クソ女の美学

ミン・ソヨン 著 岡崎暢子 訳 ワニブックス 2020年 (A:フェミニズム)

本書は、漫画とエッセーで構成されており、女性が日常的に受けるハラスメントが描かれています。著者のミン・ソヨンさんは、ウェブ漫画のプロデューサーとして働きながら、ご自身もウェブ小説を発表し続けてきた作家です。タイトルの「クソ女(あま)」という言葉が強烈でした。読み進めると、漫画は洗練されていて、お話も明快です。なぜ「クソ女」なのでしょう。著者によると、「女性は、容姿や性格や能力が良くても悪くても非難される。それならば、『クソ女』と非難されても、言いたいことを言った方がよい」とのことです。漫画に登場する女性たちも、洗練されていて、聡明ですが、女性であるが故に不愉快な思いをさせられています。彼女たちは毅然と反撃しています。しかし、現実はまだもっと厳しく、女性をめぐる不公平な境遇はなかなか変わらないかもしれません。それでも、不公平に気付いて、より多くの女性が声を挙げる必要があります。そうすることで、状況は変わっていくのではないのでしょうか。誰にとっても公平な社会を望むことは、当たり前のことです。思い切って声を挙げた人が、「クソ女」と呼ばれないような社会にしたいと思いました。ぜひ読んでみて下さい。

(A.T.)

## 女のいない男たち

村上春樹 著 文藝春秋 BOOKS 2014年 (K:エッセイ・文学)

著者の愛読者ではないがこの本を読んだのは短編集で読みやすそうなのと、目次のトップが「ドライブ・マイ・カー」だったからだ。

先日、映画化したのを見て、私にはどうにもテーマが掴めなかったので、「文字」でなら読解できるかと思ったのだ。

短編集には珍しい「まえがき」があって、久々に「短編」を執筆するに至った経緯や概要、気構えなどが詳細に書かれている。

六編に登場する男たちはそれぞれ俳優、会社員、医師、喫茶店主等職業は多様だが、みな妻や恋人と愛し合い平穏に暮らしてきたと思っていた。しかし、ある日ある時何かのきっかけで妻や恋人の裏切りに直面したり、理由も分らず去られたりしてしまう。

女の方は新しい男の元へとか、中には自死するとかして姿を消したのだが、女に捨てられ為すすべもない男たちの切なく哀しいその後が展開されていく。

ところで、読んでいて私がついていきにくいと思うところがある。たとえば「木野」における蛇や、急に預言者めいた変身をした人物を登場させて描かれる非現実的場面だ。現実からの変容になじめず、村上作品の難解さを感じてしまう。

ちなみに、「ドライブ・マイ・カー」は理解できたように思う。

(大空)

## 世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本 ハンディ版

池上彰 監修 モドロカ 画 Gakken 2021年 (O:その他)

国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)という言葉はなんとなく、当たり前になってきましたが、内容については、詳しく知らないという人も多いのではないのでしょうか。本書は、子供にでもわかるようやさしく17の目標について解説されています。

例えば、私達ボランティアグループ・りいぶるぷらすは、2022年11月19日に行われた人権フェスタのりいぶる講演会会場前の廊下にて、活動紹介する展示をだしました。その際、運営側より「11 住み続けられるまちづくりを」というオレンジのパネルを横に貼ってくださいと言われました。その時は私達がそのような活動をしているという意識はありませんでした。本書を読んで考えてみると、東京という都市一極集中ではなく地方でも誰でも安心して暮らせるまちづくり。私達は本を通じて知らない老若男女が集い、話し合い、交流し、時には提言していることがまちづくりにつながるのかなと。今までに、「5 ジェンダー平等を実現しよう」「8 働きがいも経済成長も」「10 人や国の不平等をなくそう」「16 平和と公正をすべての人に」に関連する図書も紹介しました。

皆さんも本書をみてSDGsを考えてみると意外と自分達の仕事や活動が目標に含まれている事がわかり身近に感じられるようになるかもしれません。

(か)

## 女ふたり、暮らしています。

私・ハ、ファン・ヌ 著 清水知佐子 訳 CCCメディアハウス 2021年 (K:エッセイ・文学)

韓国ブームが続いている。出版界でも例外ではなく、本書は2019年に韓国で4万6千部売れた本の翻訳です。

著者の二人の女性は、出版界で働くが SNS で30代に会い意気投合し、40代で猫4匹とともに同居します。シングルでもない結婚でもない、多様な形の分子式家族の形を紹介しています。生活してみた二人の感想は、一人暮らしがよいと思ったが、意外とストレスになっていたことに気がついた、趣味が似てると思ったが、出来ることは正反対だったなど。本書では良い事、悪い事お互いの立場から赤裸々に書かれていることが同世代の女性から共感を得て売れたとのこと。また、日本人としての私には、韓国との文化の違いやソウルの風景や食事なども垣間見ることが出来るのが魅力かと思います。

ただ、身近な存在であるのに、法律的には家族ではないので、入院したときなどに悲しい思いをしたというのは日本も同じであるなあと思う。 (か)

## 津田梅子 科学への道、大学の夢

古川安 著 東京大学出版会 2022年 (J:自伝・評伝)

来年からの新五千円札に登場する津田梅子。女性としては神功皇后、紫式部、樋口一葉について4人目。教育関係でいえば新渡戸稲造、福沢諭吉について3人目。そして理系としては野口英世に次いで北里柴三郎とともに2人目である。

彼女を理系と位置付けるのには異論があるかもしれないが、実は彼女は「蛙の卵の軸の定位に関する研究」で我が国の女性としては初めて欧米の学術雑誌に論文が掲載された生物学者でもあったのだ。

あの岩倉使節団にわずか6歳で同行し10年余りアメリカへ官費留学した彼女が、帰国後なぜ再渡米して研究の道に進んだのか、なぜ生物学者の道を断念して「女子英学塾」を創設して華族平民の別なき女子教育に取り組んだのか、なぜ次々と彼女を支援する有力な人々と巡り合えたのか。りいびるのテーブルであつという間に読みました。 (紀生)

## ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー

ブレイディみかこ 著 新潮社 2019年 (K:エッセイ・文学)

イギリス南端のブライトンに20年以上在住の著者が、息子について描いたエッセイ。

私立小学校から、「元・底辺中学」と呼ばれる学校に進学を決める息子。そこには、さまざまな家庭の子たちが通っている。イギリスは貧富の差が激しい階級社会、それに加え様々な人種が住んでいる。アイルランド人の父、日本人の母、イギリスに住んでいる息子は、いったい何人なのだろう？日本ではあまり直面しない、多様性やアイデンティティについても考えさせられる。

イギリスでの生活や学校の現状が鮮明に描かれている。息子が学校での出来事を母に話す場面もあり、母・息子の関係が素敵だなと思わされる作品です。 (めい)

## 断る力

勝間和代 著 文芸春秋 2009年 (K:エッセイ・文学)

著者は「断るといってネガティブに聞こえるかもしれませんが、相手も自分も大事にするために、深く考える力ととらえることで、新しい世界観が見えてくるのです」と言っています。この本では、どうしたら「断る力」を身につけることができるのかを具体的に説明しています。一部を紹介します。

★断ることで失うものより、得られるものの方が大きい。★断ることによるデメリットは思ったより少ない。★空気を讀んだうえで臨まないことにはNOと相手に伝える。★社会に対しても自分の意思で考えNOを言える力を養う。ただし、むやみやたらに断るのではなく、どういうところでは断り、どういう場面では引き受けてベストを尽くすべきなのかを培っていく。

さあ勇気を持って断りましょう。読めば人生が少し変わる気がします。(はんちゃん)

## 生きるためのフェミニズム パンとバラの反資本主義

堅田香緒里 著 タバックス 2021年 (A:フェミニズム)

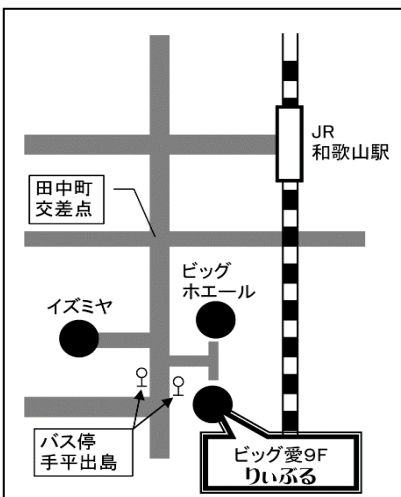
本書は3章から成り、フェミニズム誌などへの連載を再構成した内容となっている。

第1章「パンとバラのフェミニズム」では、『一部のアップークラス女性の「活躍」は、多くの労働者階級の女性の「活用」ないし犠牲の上に成り立つものでしかない』と指摘し、女性活躍政策を“偽装”フェミニズムと批判する。

第2章「個人的なことは政治的なこと」では、一転して著者の個人的な経験が語られる。学生の頃は野宿をしている人たちと共にあり、支援する立場にあった著者。学者となってからは、ホームレスを研究対象として扱わねばならなくなったためらいと逃避などを吐露する。

そして第3章「ジェントリフィケーションと交差性」では、著者が高校生の頃、横浜市石川町寿地区で出会ったホームレスのタネさんとの交流について語られる。ジェントリフィケーションとは資本の「再開発」によって都市の貧困地域の地価が高騰し、貧困層が都市を追われるという現象だ。寿地区はドヤ街、日雇い労働者の町だった。ところが2000年代から様子が変わり始め、観光客向けのグリーンで均質な空間へと変貌する中、タネさんは姿を消した…。

「私たちはみな、資本主義という恒常的な災害の被災者である」とは、第1章に付された副題であるが、本書を貫くテーマのように感じられた。(0.S)



この本 よんだ? 第26号 (2023年3月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】

私たちは、りいぶるの図書・情報交流スペースに置いている図書などを紹介する書評誌を年2回ボランティアで発行しています。このたび、執筆、編集、印刷をするメンバーを若干名募集します。詳しくは、下記アドレスまで問い合わせください。

★あなたも書評を書いてみませんか? ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。 E-mail [libreplus@yahoo.co.jp](mailto:libreplus@yahoo.co.jp)